

2021 年度 第 3 回 鋼材規格三者委員会 資料 15・16 補足 (修正版)

規格番号	JIS G 3101 追補 1、JIS G 3106 追補 1
規格名称	JIS G 3101：一般構造用圧延鋼材 JIS G 3106：溶接構造用圧延鋼材
担当主査名	山本 治
<p>1. 改正の背景・目的</p> <p>JIS G 0203 (鉄鋼用語：製品及び品質) を 2022 年度改正に向け作業中である。その中で、JIS G 3101 及び JIS G 3106 の“鍛錬成形比”の定義が、今回審議予定の製品規格と不整合があり、また一部不正解なことより、追補 1 として改正する。</p> <p>2. 改正ポイント</p> <p>1) JIS G 3101 の 3.7 (鍛錬成形比) 及び JIS G 3106 の 3.3 (鍛錬成形比) 用語定義を、今回審議予定の製品規格〔JIS G 4401 (炭素工具鋼鋼材)〕で規定している定義に整合するよう、“変形の大きさの度合いであり、鑄造時の断面積と熱間押し後の断面積の比”に修正する。</p>	

追補 1 のまえがき

この JIS G 3106 の追補 1 は、産業標準化法に基づき、経済産業大臣が JIS G 3106:2020 を改正した内容だけを示すものである。JIS G 3106:2020 は、この追補 1 の内容の改正がされ、JIS G 3106:9999 となる。

なお、令和 XX 年 XX 月 XX 日（12 か月）までの間は、産業標準化法第 30 条第 1 項等の関係条項の規定に基づく JIS マーク表示認証において、JIS G 3106:2020 を適用してもよい。

JIS DRAFT 2021/12/22

溶接構造用圧延鋼材 （追補 1）

Rolled steels for welded structure
（Amendment 1）

JIS G 3106:2020 を、次のように改正する。

箇条 3（用語及び定義）の 3.3（鍛錬成形比）を、次に置き換える。

3.3

鍛錬成形比

変形の大きさの度合いであり、鋳造時の断面積と熱間押し後の断面積の比